

令和6年度農業後継者特別支援事業

事業主体名 鹿児島県立農業大学校農学部野菜科

1 目的

県立農業大学校では、秋作ばれいしょ栽培においては種いもの腐敗防止のため全粒いも(無切断)の種いもを植え付けている。しかし、種いもは異階級が混在して販売されており、植え付け株数の少ない株間30cmでも、全粒いもは切断いもと比べ種苗費は約12万円/10aのコスト高となる。

秋作の種苗費の削減を図るためには、春作で種いも規格2S級(30～39g)、S級(40～59g)を多く生産する方法がある。そこで、春作栽培で種いもにジベレリン処理を行い、種いも規格別に2S及びS級(無切断)、M級(60～119g、2つ切り)、L級(120～189g、3つ切り)の全粒種いもの生産性の検討を行い、秋作での単位面積当たりに必要な春作での種いも栽培面積を明らかにする。

2 実施状況

- (1)種いも消毒は、アタッキン水和剤を用いて2月28日に行った。風乾後、ジベレリン処理7ppm、30秒浸漬を3月3日に行った。
- (2)購入種いもについて、規格別への選別を2月20日に行い、2月22日に規格ごとに適正な個数に切断した。購入種いも1袋20kgにおける規格別の個数は以下の通りであった。
- (3)植え付けは3月8日に実施。

表1 購入種いも1袋20kg中の規格別個数と切断個数

規格	重量区分	個数 (個/袋)	切断
2S, S	～59g	116	なし
M	60～119g	170	2つ切り
L	120～189g	12	3つ切り



写真1 種いもSサイズ全粒種とMサイズの2分割種



写真2 学生による植え付け作業

3 今後の課題、取り組み

ジベレリンの処理は、殺菌剤による種いも消毒作業時に混合使用で行うことができる。作業工程が増加することにはならないので、取り組みやすい技術である。

※なお、最終実績については、収穫が終了した段階で公表します。